

# 記念事業の紹介

～20年  
あったね～



## ボランティアサークル「ひとみの会」

会長 佐藤 瑞子

～と思えるほどの20年間で社会状況が変わり活動内容も変わったけれど、とにかく高齢の方との出会い、ふれあいが楽しくて続いてきました。生きにくい世だからこそ、どうしたら一時でも楽しく過ごせるか、知恵を絞り、自分の持ち味を出しあってきました。

これからも無理なく、出来る時に、出来ることをモットーに続けていきたいと思っています。

## ガイドボランティア「ほたる」

会長 山口あけみ

平成27年11月、ガイドボランティア「ほたる」は、創立20周年を迎えました。

当会は、目の不自由な方々が社会参加する上で、目の替わりとなるボランティアとして援助し、共に共感し合える仲間として歩み、知識や技術向上の目的を掲げて活動しています。

20年という節目を迎え、これからも、ボランティア精神を広め続けていきたいと思っています。



## 岩見沢市赤十字奉仕団

委員長 春木 弘子

当会は今年度55周年を迎え、12月に記録誌を発刊しました。

4月の総会席上で27名の団員が日赤北海道支部より感謝状が授与されました。

奉仕団の信条に基づき、団員の温かい協力で赤い羽根共同募金、献血依頼の呼びかけ、公共施設等の花壇の整備、福祉施設の手すり清掃、特別養護老人ホームへ清拭用ウエスをお届けして喜ばれています。

今年は、皇居勤労奉仕に参加の計画をし 参加者募集を行っていますのでご一緒しませんか。

今後、60周年に向けて頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



## ボランティアセンターからのお知らせ

☆ ボランティア活動に関する相談ことは、ボランティアコーディネーターがお受けします。あなたも、ボランティア活動に参加しませんか。連絡をお待ちします。  
相談時間 月曜日から金曜日までの10時30分～15時30分  
(土・日・祝祭日・お盆・年末年始はお休みします。)



## ボランティアセンター情報

2016. 3 発行 NO. 46

# おもしろい

岩見沢市社会福祉協議会 ボランティアセンター TEL・FAX25-5516  
〒068-0031 岩見沢市1条西3丁目 岩見沢広域総合福祉センター TEL22-2960

平成27年度学童・生徒のボランティア活動普及事業指定校

## 指定地域福祉教育セミナー

(27年度社会福祉協議会指定校助成27校)

日時 平成27年11月20日(金) 13:30～ 会場 岩見沢広域総合福祉センター

内容 1、2校の事例発表(日の出小学校、上幌向中学校)

2、講演「福祉教育を通して子どもたちに伝えたいこと」

講師 札幌国際大学スポーツ人間学部教授 佐久間 章 氏

事例発表を行った学校によると、障がい体験学習を通して共に生きる温かい心、実践する心を育てるねらいとしているそうです。又、何事も体験しなければ分からないが、ケガをしたと心配が多いとのことでした。具体的な活動を通して、地域と連携することが大切であるとのことでした。

講演では、佐久間氏が「知識を身につけることではなく、行動するための力を持っているかどうか、一諸になって考えることである」「子供たちに、必要な能力はコミュニケーション力である。子どもたちに体験させ、気付かせること、地域を託す人を育てることが大切である」とお話しされました。

講師 佐久間 章 氏



日の出小学校教頭 牧野 良信 氏



上幌向中学校教頭 梶浦 健司 氏







平成 27 年度  
ボランティア活動者研修会  
平成 28 年 2 月 26 日(土)13:30 分～  
77 名参加  
(演習)  
『ふまねつとつながる笑顔のボランティア』  
講師 ふまねつと岩見沢「円」

1. 「ふまねつと運動」は、ステップの学習を通じて歩行機能と認知機能を改善していくために考案された運動です。
2. あみを踏まないようにまたぎ越すことは、左右の足への体重移動の調節機能を高め、バランスを改善し歩行機能を向上します。
3. あみを踏まない、ステップを覚える、リズムを合わせる、ゆっくり歩く、手拍子を行うなどの複数の課題を同時に行う運動が中枢の神経活動を向上し、注意、集中、記憶といった認知機能を改善すると期待されます。—配布資料より抜粋—

☆ 参加者からの声

- ・家に帰って「今日は楽しかった！」といえます。
- ・ふまねつとが良くわかりました。



期間 昼→毎週水曜日 4月～12月 } 各 34 回  
夜→毎週火曜日 4月～12月 } 受講者 29 名

平成27年度 「手話奉仕員養成講座」

《内容》 ろうあ者の指導で進行し手話の基礎知識（指文字 50 音・単語・顔の表情・イメージ他）や聴覚障がい者の生活、障がい者福祉ボランティア活動等々について学びます。



ろうあ者にとって手話とは命綱であることを知りました。手話では言葉に捉われず、まずはイメージした動作で伝えることが大事なのだと言われました。ろうあ者の先生と何気ない会話が通じた瞬間はとても嬉しかったです。

b y 河合 由紀恵

※私達が毎日使っている何気ない動作が、そのまま手話に使われているのたくさんあります(食べる・寝る・泣くなど)

昨年、初めて「手話」を学ぶ機会を得ました。表現も読み取りも大変難しいですが、つながる喜びはとても新鮮です。「エプロン」サークルに入れていただきこれからも続けていくつもりです。

b y 飯野 勝正

仕事の中で、ろうあ者の方とお会いする機会があるので、手話でお話できればと思い受講しました。手話が分かっていく・相手に伝えることが出来るようになっていくのがとても嬉しかったです。

b y 国府田 裕之

# 高齢者疑似体験

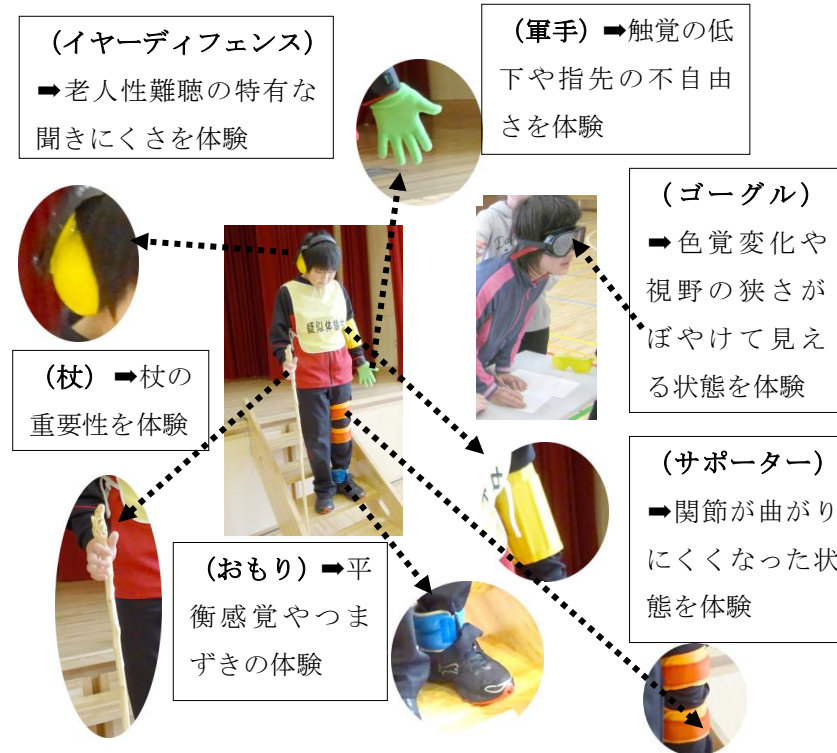
依頼増加中

目的 高齢者疑似体験により身体の機能低下を体験し、誰もが年をとり老化していくことは自然な姿であることを理解し、高齢者に対する思いやりの心を育てる  
内容 高齢者についての講話と高齢者疑似体験、生徒との交流  
講師 岩見沢市社会福祉協議会 職員・ボランティア



生徒さんの感想…

- 💡 視界が狭く、声が聞こえずらかったり腕もあまり動かなかった。
- 💡 物をつかむときは手足が曲がらずたいへんでした。耳も聞こえずみんなの話し声があまり聞こえませんでした。
- 💡 足とか腕につけるものが重い感覚で階段をのぼる時、おりる時が大変で足が疲れ前に進むことができなかつた。体験したおかげで高齢者の気持ちがちょっとわかった気がします。不自由な人をみかけたら、助けてあげようと思います。



## 空知地区ボランティア活動推進セミナー

平成27年11月17日  
美唄市民会館 2階 大会議室

☆ 講義・演習 「寒冷地における防災の知識について」

☆ 講師 冬期被災対応ネットワーク代表、日本赤十字北海道看護大学教授 根本 昌宏 氏

『冬期被災に対応した避難所の設営・運営に向けた実践について(HUG)』

















HUG(はぐ)と呼ばれる「避難所運営ゲーム」もし、あなたが冬期の避難所を運営する立場になった時どのように対応していくかを20のグループに分かれて模擬体験をしました。

HUG (ハグ)  
避難所運営ゲームとは  
H(Hinanzyo 避難所)  
U(Unnei運営)  
G(Gameゲーム)

○ 炊き出し実演 「美唄市日赤奉仕団による炊き出し実演」





8			あそびま しょ～
7	ぼっちゃん いっしょに		
6			こんにち は～
5	どじょうが でてきて		
4			さあ～ たいへん
3	おいけに はまって		
2			どんぶり こ～
1	どんぐり ころころ		
	A	B	C